

道徳教育の基礎と道徳学習指導案の作成方法を学ぶ

学校教育・山口 充

1. 授業の達成目標と概要

この授業（後学期）は、教員養成課程の2回生と医学部看護学科の1回生を対象とする教職専門科目である。受講生数（登録者数）は、教員養成課程 B クラス 54 名と医学部看護学科 6 名の、合計 60 名である。

授業の達成目標は、大きく、

①道徳教育の意味や子どもの道徳性の発達について学び、小中学校における道徳指導を担当するために必要な基礎的な知識や技能を身に付けること、②道徳学習指導案の作成方法を学び、道徳指導を実践力を身に付けること、③受講生が道徳教育に関する諸テーマに積極的・主体的に取り組む、自らの道徳観及び道徳教育観を養うこと、の三点である

こうした目標を達成するために、授業は以下の諸テーマに沿って展開された。①道徳及び道徳教育の意味、②子どもの道徳性の発達と特質、③学校における道徳教育－基本方針・目標・内容・計画・方法・評価、④道徳指導案の作成演習と模擬授業、⑤2 名の実地講師による、小学校及び中学校における道徳教育に関する実際実践的内容の講義。

2. 授業評価アンケートの結果

授業の最終回に 12 項目にわたる授業評価アンケートを実施した。アンケートは 5 段階評価の部分と自由記述の部分から構成されている。なお、受講生数は 60 名であるが、当日の欠席者を除き、回答した学生数は 50 名であった。

1) 5 段階評価の結果 (9 項目)

(1) 授業への出席状況

平均得点は、4.7 であり、授業への出席状況は極めて良好であった。

(2) 授業への取り組みの意欲

平均 4.2 であり、全体的に学生の授業への意欲は高い。

(3) 授業のテーマや目標の明確さ

平均は、4.2 であった。得点の割合は、a [非常に良い] が 26%、b [良い] が 58%、あわ

せて 84%であった。

(4) 教員の話し方の明瞭さ

平均は、4.4 であった。a [非常に良い] が 50%、b [良い] が 36%であり、あわせると 86%であった。

(5) 板書やプリント等の適切さ

平均は 4.3 であった。a [非常に良い] は 42%、b [良い] は 42%であり、あわせると、84%であった。

(6) 理解しやすい授業への教員の努力

平均は 4.4 であった。a [非常に良い] が 52%、b [良い] が 40%であり、あわせると、92%であった。

(7) 授業に対する教員の熱意・工夫

平均は 4.6 であった。a [非常に良い] が 72%、b [良い] が 20%であり、あわせると 92%であった。

(8) 授業の内容・レベルの適切さ

平均は 4.2 であった。a [非常に良い] が 42%、b [良い] が 40%で、あわせると 82%であった。

(9) 授業から得るところがあったか

平均は、4.3 であった。a [非常に良い] が 46%、b [良い] が 46%で、あわせて 92%、c [普通] は 1.8%、d [あまり良くない] と e [良くない] を合わせると、人数は 1 人、割合は 0.02%であった。かなり好意的な評価である。

2) 自由記述による受講生の声 (3 項目)

3 項目について自由記述を求めた。長くなるが、受講生の貴重な声であり、できるだけ生の声を再現し、授業改善の縁としたい。なお、自由記述欄に「なし」、「特になし」と書いている回答、あるいは「空白」の回答もあり、受講生全員の声ではない。

(1) 「この授業で良かったと思う点、評価できる点」

[指導案作成・模擬授業について]

・指導案を作成することによって『学習指導要

領・道徳』を深く読むことが出来たし、道徳教育についても深く考えることができた。

- ・個人ではなく、班での授業指導案作りに取り組んだ点がよい。複数の視点から授業を作るのは難しくもあり、精練されたものができるきっかけにもなったと思います。
 - ・模擬授業が15分と短かったが、それでもリアルなもので、教育実習を少し事前に体験できてよかった。/指導案作りなど、学校現場で必要な実践につなげることができる授業だった。/模擬授業をするというプレッシャーから真剣に指導案を考えることができた。/道徳の授業をどのように構成していけばよいかを学び、糸口が少し見えた。
 - ・模擬授業を体験できた。/自分たちの授業を行うことによって考えを深めることができた。/模擬授業が充実していた。/模擬授業がためになった。/いろいろな班の模擬授業が見ることができた。[授業の内容・資料などについて]
 - ・実地講師の話がきけてよかった。
 - ・基本(道徳の意義)から教えてくれた。教育実習に使える内容だったのでよかった。
 - ・プリントが詳しく、後で見直しやすかった。/資料がよかった。/レジュメが多いので、復習がしやすかった。/プリントを用いて分かりやすく解説してくれた。/学生に分かりやすいレジュメを毎回作ってくれ、有難かった。
 - ・先生の研究が元になっている話しであった点がよかった。
 - ・道徳について改めて考えることができた。/「道徳」について学ぶべきことが多かった。/なぜ道徳が必要なのかということ深く考えることができた。
 - ・「道徳」の深さや難しさ、そして現在の子どもを取り巻く環境にも関係した「心の教育」が道徳教育であることを知ることができた。
 - ・日本の公教育における道徳教育の在り方を理論と実践から知ることができた。
 - ・道徳を指導する際、どのような点に気をつければよいか、よくわかった。
 - ・授業中に板書した言葉のなかに生活経験から共感できるものがあり、学校における道徳教育だけでなく、生きるのに役立つ話を聞いてよかった。
- [話し方・説明・授業の雰囲気などについて]
- ・先生が、学生の意見を踏まえて自分の意見を述べてくれたことがよかった。
 - ・教育学部の学生と一緒に授業を受けることがで

き、今までとは違った発見があった。

- ・先生の話が聞きやすかった。/先生の言葉がとても優しさを感じるもので、良かったと思います。/先生の笑顔によって、自然と授業に引き込まれた。/話し方が分かりやすかった。/先生に共感もて、内容も楽しく、ためになった。/先生の熱意に惹かれました。/おだやかだった。

(2)「この授業で良くなかった点、改善すべき点」

[指導案作成・模擬授業について]

- ・模擬授業は15分だけではやりにくい。・先生の話がずっとあったので、途中考える時間ももつとあったらよい。
- ・1班ごとの模擬授業の時間が短かった点。
- ・模擬授業の数を減らし、[中学校の]授業時間、50分全部の模擬授業を行ったほうが良かったと思います。
- ・もうすこし指導案作成の時間がほしかった。
- ・指導案作成が大変だった。/模擬授業で、とても緊張しました。

[双方向性について]

- ・『学習指導要領』改訂による新旧の移動箇所への線を引く作業が長かったかなと感じました。
- ・少し一方的だったような気がします。/もう少し活動を多くしてほしい。/途中で学生がもっと参加できるようにしてもらいたい。

[板書・出欠・私語などについて]

- ・板書が読みづらいときがあった。
- ・出席をとったり、とらなかつたりしたことがあって、困った。
- ・うるさい人がいる。先生はもっときつく注意してもいいと思う。/学生の私語が多い。/私語についてもう少し注意して欲しかった。/学生に甘すぎる(先生が優しすぎる)

(3)「この授業を受けて気づいた点、感じた点」

- ・道徳は難しい教科だなと思いましたが、自分の考え方について、また人間関係などについて考えるよい良い機会となりました。
- ・道徳は、自分が思っていたよりも深い科目で、その分やりがいがあると感じた。/道徳心を子どもたちに養うことの難しさを感じた。/道徳は、思った以上に難しい教科です。
- ・道徳に対しての自分の見方が変わりました。
- ・道徳の大切さを学びました。/勉強になりました

た。/道徳授業の奥深さを知った。/先生の雰囲気
がよかったので、授業を受けやすく、よかった。

3. 総括と課題

1) 平成 18 年度授業評価報告書に記載した改 善すべき事項の改善状況

この授業・「道徳指導論」については、2年前の
平成18年度にも授業評価報告書を提出している。
その際、今後の改善点として以下の4点を挙げた。

- ①双方向の授業に更に工夫すること
- ②指導案作成の機会を増やすこと
- ③模擬授業を実施すること
- ④遅刻者に対する対応、板書の仕方、授業資料
の作り方

まず、これらの点について点検してみる。

(1) 双方向の授業については、「もう少し活動
を多くしてほしい」、「途中で学生がもっと参加で
きるようにしてもらいたい」といった意見がある
ように、講義前半における、「道徳及び道徳教育
の意味」や「道徳性の発達」などの、道徳教育に
関する原理的・部分の講義においても、学生の参
加を保障する授業に努める必要がある。

(2) 指導案作成や模擬授業の実施については、
「模擬授業をするプレッシャーから真剣に指導
案を考えることができた」、「自分たちの授業を行
うことによって、考えを深めることができた」、
「模擬授業は役に立った」といった多くの好意的
な評価が寄せられ、指導案作成の演習と模擬授業
は有効であったと考えられる。

しかし、その一方で、「模擬授業の時間が15分
では短すぎる」、「1時間全部の模擬授業をさせ
てほしい」といった意見があるように、模擬授業
についてはなおも改善の余地が残った。

(3) 授業の内容や資料については、「基本(道徳
の意義)から教えてくれた」、「教育実習に使える
内容だったのでよかった」、「プリントが詳しく、後
で見直しやすかった」、「プリントを用いて分か
りやすく解説してくれた」など、授業内容や資料
については好評であった。授業の方法もさること
ながら、中身も重要であることを教えられた。

(4) 板書や私語、出欠管理などについては、学
生の声から窺えるように、なお課題が残っている。
私語については「もっと厳しく注意すべきだ」と
いった指摘があり、また、ときに板書が見難いと
の指摘がある。改善を図りたい。

2) 総括と今後の課題

(1) アンケート項目、「授業への出席状況」及
び「授業への取組みの意欲」から窺えるように、
学生の出席状況はとても良好であり、学習意欲も
極めて高い。最近学生の学習意欲が確実に高まっ
ていることを実感する。担当者としても教えがい
のある授業であった。

(2) 5段階授業評価及び自由記述による評価か
ら窺えるように、総じて受講生の評価は良好であ
ると言えよう。

(3) とくに、「道徳について改めて考えること
ができた」、「道徳に対しての自分の見方が変わ
りました」、「道徳は難しい教科だと思いましたが、
自分の考え方について、また人間関係などにつ
いて考えるよい良い機会となりました」、「道徳は、
自分が思っていたよりも深い科目で、その分、や
りがいがあると感じた」、といった学生の声は、
授業担当者にとって大いに励みとなる。

(4) この授業は、教員養成課程2回生と医学部
看護学科1回生(養護教諭免許取得志望者)との合
併授業である。学年の違いがあるため、看護学科
の学生にはそれなりに配慮したが、十分であった
だろうか。しかし、「教育学部の学生と一緒に授
業を受けることができ、今までとは違った発見が
あった」、「教育学部の学生の模擬授業するのを見
て、驚いた」といった声があり、看護学科の学生
にとっても貴重な経験になったとも思う。

(5) 今後の課題としては、上に記した諸点の改
善を図ることと同時に、これまで以上に自覚的に、
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連で、授業
目標をいっそう明確にし、改善を図ることが課題
である。そのためには、授業評価アンケートの内
容についてもDP達成の視点からの改善を加える
ことが必要である。